

コロナと飛行機 2020-9-7

今回のコロナ禍の前のことですが、夜8時ごろ庭に出ると、南と東の空に2-3個の赤い豆粒ほどの動くものがほぼ毎日眺められました。飛行機の尾灯です。高く飛ぶ飛行機の音は地上に届かず、赤い灯を点した飛行機が夜空を高く静かに動くのを見ると、「ああ、世の中は平和だ」と思うと同時に、「なぜ、こうも多くの人が夜も昼も行き来しているのだろう」と不思議にも思っていました。そして、昼も夜も忙しく飛び回る飛行機の排気ガスのことも気になっていました。

で、今回のコロナ禍です。夜、庭に出て空を見上げて、赤い動くものはほとんど見えません。星と月だけで、なにかすっきりした感じがします。お天道さまも息苦しい排気ガスをのがれて、やれやれ一息でしょうか。でも、飛行機で移動しなければならぬような人や、航空会社などは大変だろうと気の毒にもなります。

ただ、飛び交う飛行機がほとんどなくなった夜空を眺めて、ふと思うことがあります。それは、飛行機で移動しなければならぬ人達がそれほど多くいるのだろうかということです。すこしでも大気中の炭酸ガスを減らすことが、地球の温暖化の防止に繋がります。この際、不要な移動を少なくすることを考える良い機会ではないでしょうか。

それで、飛行機をどのような人達が利用しているのでしょうか。旅行、会議、出張、冠婚葬祭、帰郷などの人達に飛行機が利用されていますが、まずは、会議を減らすべきだと思います。あまり意味のない形式だけの会議が多すぎます。

あるとき、文科省から相談に来てほしいと電話があり、岡山から一日がかりで出かけましたが、話の内容は電話でもメールでも済む程度のものでした。また、文科省関係のある委員会の委員でしたが、その会に出ると100ページ以上もある資料を渡され、説明を受け、25人前後の出席者から特別の意見もなく終わりでした。ただ、会議をやりましたという格好をつけるだけの感じでした。

このような会議が世の中には多いのではないのでしょうか。無駄な会議を見直すべきです。時間やお金の節約、地球環境の保護のために。

蛇足かも知れませんが、東京で桜を見る会なども無駄なものではないでしょうか。